資料③

2026 年 7月 2日

飯山市長 江沢岸生 様

飯山市旧４小学校利活用ビジョン提言書(案)

飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議

1. はじめに

飯山市内の現在空き小学校となっている旧4小学校(泉台小、常盤小、戸狩小、東小)の利活用については、令和8年2月24日に組織された、飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議(以下「市民会議」という)において、飯山市の現状、強み、弱みを確認し、他自治体の事例等も確認しながら話し合いを重ねてきました。

我々が考える空き小学校の利活用ビジョンは、飯山市が将来的に存続するために必要と思われる機能や施設を想定しまとめております。飯山市の強みを更に磨いて他自治体との差別化を図り、弱い点は他自治体と同水準になるよう引き上げを目指します。

飯山市民、そしてこの地を訪れた人々も、空き小学校が「住みよい飯山の拠点施設」となることを願い、提言書をまとめました。

2. 空き小学校利活用の基本的な考え方

飯山市は子育て世代が少なく、生まれてくる子どもの数も年間100人を下回っています。地域で住み続けるための負担も年々増えており、住みにくい田舎になりつつあります。このままでは益々少子高齢化が進み、人口減少の一途をたどることになると考えます。

我々は、空き校舎に市民の勤め先となる事業者に来ていただくような「産業の拠点を目指すよりも、住みよい飯山を実現するための機能や施設」としての方向性を導きました。市民の中には新幹線で通勤する方も増えております。また、近年はリモートにより勤務する方も増えています。新幹線の活用や柔軟な働き方が一般的になっていくにつれ、旧4小学校を働く場としての機能付けしていくよりも、地域に子どもの声が溢れ、子育て世代に飯山市を選んでいただけるような機能や施設を整えることが有効な活用方法ではないかと方向づけています。

合わせて、市として考えられる旧4小学校の利活用、災害対応、地域の活動に対する内容についても加味しています。

また、本市民会議では「飯山市の強みや弱みを議論し、強みを最大限活かせる活用方策」を推し進めるために「差別化とキャッチアップ」という考え方のもと、検討をしております。飯山市の強みを活かし他市町村にはないサービスを行う拠点と、飯山市の弱みを補い他市町村に追いつくためのサービスを行う拠点を分けて具体的な利活用策を検討して次のとおり提言することとしました。

3. 旧4小学校を利活用する方策

⑴飯山市の強みを活かす空き校舎利活用方策

「豊かな自然環境」、「市民の人柄の良さ・温かさ」及び「新幹線駅がある」ことが飯山市の最大の強みと考えます。飯山の大自然や温かな市民に見守られながら、飯山市の地域資源を満喫できる場所や、子ども達が安全に安心に過ごせる場等『子どもや子育て』がキーワードとなる機能や施設としての利活用を提案します。併せて子育てについては他の自治体と差別化を図れるような政策を同時に行うことで、飯山に住みたい子育て世帯が増えなくとも減りにくいのではないかと考えております。以上のことから、「子どもと訪れたいまち、子育てしたいまち長野県トップクラス」に向けた中心的な機能(役割)を空き小学校に求めます。

≪施策例≫

①子育て世代にとって魅力的な施設(機能)

(例:　中野市の「ハブリック」、長野市の「ながのび」に匹敵する子育て施設)

②飯山市の地域資源を活用した教育・子育て施設(機能)

・地域独自の自然や環境を最大限活かした「木育」や「森林教育」、「雪の科学」や「農業」等、新たな教育観光の拠点。

・自然に育まれ、心を癒しながら通える通信制高校やフリースクールの誘致

③外国人や都会の子ども向けの特化型「自然留学」プログラム

・スポーツ留学、小学生向け冬/夏体験学習、山村留学

⑵飯山市の課題を解決するための空き校舎利活用方策

本市民検討会議では、飯山市の弱みは、「知名度の低さと PR 力の弱さ」、「駅前・中心市街地の機能(宿泊・商業・飲食・土産)不足」、「人口減少や少子高齢化によるコミュニティでの役務的金銭的負担の増」や「暮らしのインフラ(交通・医療・介護)及び単身者向け移住支援の弱さ」、観光においては「グリーンシーズンの弱さや全市的に宿泊施設が少ない」こと等が掲げられています。

これらの全ての弱みを旧4小学校の利活用により底上げすることはできませんが、移住や観光交流、健康増進や介護等、市の課題解決に資する利活用は可能と考えます。どのような利活用であってもこれからの変化の激しい時代において、市民がどの世代になっても安心して住み続けられ、市民も訪れた人も国籍や年齢にとらわれず交流し、つながりが強められる機能や施設を提案します。

≪施策例≫

①ホワイトシーズンは勿論のこと、グリーンシーズンにおいても星空や農業体験、サイクリング等、都会では味わえない自然との触れ合いの体験やコーディネート・相談できる機能や施設

（例: ファミリーで宿泊できる宿泊施設、ペットと宿泊できる宿泊施設、クラインガルテン）

②若者や単身者が移住のお試しや仕事等で中長期的に滞在できる機能や施設。都会のビジネスマンや芸術家等の居住と事務所（アトリエ）を兼ねる機能や施設。

（例：単身者向け移住お試し宿舎、農業就労者等向け中長期型滞在施設、起業のベース基地、ワーケーション施設、アーティストインレジデンス）

③高齢者福祉や健康増進等、子どもから老人まで交流し利用できる機能（施設）

（例：介護サービス事業者、サービス付き高齢者住宅、スポーツジム、若者と高齢者が交流できる場）

④独自の農産物（伝統野菜や米、キノコ等など）や伝統的な食文化を体験し楽しめる機能（施設）

（例：農家レストラン、加工所）

4. 旧4小学校利活用の担い手について

旧4小学校の利活用については激変する環境変化にしなやかに対応し、事業継続が望まれるため、民間活力を積極的に活用していただきたい。

原則的に「市」は、事業を進める上での相談窓口として、地元とのマッチングや必要な許認可申請等の後方支援を行う。

尚、どうしても市で設置（建設）する場合であっても公民連携の手法を優先的に用いることとし、民間企業等のスピード感等を大いに活用し事業を進めていただきたい。